

何事も前向きに挑戦

羽鳥地区在住。「観客から大きな拍手をもらったときや、観客が満足した顔で帰る姿を見たときの感動は格別」と語る古侯さん。



Staff Egg(スタッフエッグ)

古侯 和雄 さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.12

住んでよかったと感ずる日々

四季文化館みの〜れで、舞台裏方ボランティアスタッフ『Staff Egg(スタッフエッグ)』の一員として活躍する古侯和雄さん。機材の仕込みから始まり、ピンスポットライト操作、特技を生かした大小道具製作など、裏方全般に関わっている。また、演劇・コーラス・シャンソン・ピアノ・津軽三味線・トランペットなど、プレイヤヤーとしても積極的に活動。三〇〇坪の畑に約四〇種類の野菜を作る趣味も持つ。

一〇数年前、転勤で東京から小美玉市羽鳥に移り住んだ。二〇〇〇年に水戸市で行われた市民ミュージカルに参加していた古侯さんは、観劇していたみの〜れ開館準備担当職員への誘いを受け、開館へ向けてのプロジェクトに参加し、みの〜れ住民劇団「演劇ファミリアMyu」を立ち上げた一人。

Myuでは役者の他に大小道具製作も手がける。現在進行中のプロジェクトである住民ミュージカル『RENDA』では、戦時中の木のバケツをイメージして一〇個製作する。写真を参考にしたり、図書館やホームセンターを回り、「本物」を追求するため日々勉強。職場の昼休みを利用して木の

バケツを作り、帰宅してからは『RENDA』のセリフ稽古をしている。多忙な古侯さんの一週間は、水戸市でコーラスとシャンソンの練習、みの〜れで『RENDA』稽古や裏方スタッフの打ち合わせ、地域コミュニティの会議など、貴重な時間をフルに活用。何にでも前向きに挑戦し努力を重ねてクリアしていくのがモットーで、昨年トランペットを始め二曲吹けるようになった。ピアノも弾けるようにと、コーラスやシャンソンのレッスンは、前後どちらかに一時間ほど練習している。また、「より良い声が出るために」と、毎日のストレッチをかかさず。「何事も飽きずにずっと続けていけば、だんだん出来るようになる」と古侯さん。

一寸の時間を見つけては草とりに励む家庭菜園。採れた野菜は、会社、コーラスやシャンソン、Myuの仲間にも食べてもらう。豊かな自然に囲まれ、「自分の好きなことをしているので、体調を崩すことなく生き生きと輝いた生活が送れている」。茨城に来て良かった、と感ずる日々。たくさんの野菜の収穫が今から楽しみだ。最後に古侯さんに若さを保つ秘訣を聞いてみた。「腹式呼吸で大きな声を出すこと。何事も諦めずに挑戦し続けること。毎日三〇分ストレッチをすること」。

皆さんもどれか一つ挑戦し、若さを保つてみませんか？ (藤田佐知子)